

令和8年度 県立下館工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 心身ともに健康で、豊かな人間性と主体性を育てる学校 2 工業に関する知識・技術を身に付け、それらの学びを通して社会課題の解決に向き合い、次世代の産業発展に寄与する人財を育成する学校 3 多岐にわたる生徒の希望進路を実現できる学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つのスクールポリシー」	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	生徒の主体性、コミュニケーション能力を高め、次世代の技術者（次世代を担う人財）としての、問題解決能力、情報活用能力の習得		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	協働的な学習や（外部人財を活用した）実践的な学びを通し、基礎学力の定着と専門教科の探究心を育む学び		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	工業に関する分野に興味があり、学ぶ意欲と探究心をもち、失敗を恐れず、繰り返しチャレンジする志のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学習面では、実習に力を入れるとともに、「ICTの積極活用」を推進した結果、90%の生徒から「先生の授業はわかりやすい」「先生は教材や教え方を工夫している」との評価を得た。引き続き、授業の満足度の向上に努める。 昨年度の卒業生は、100%の進路実現を果たすことができた。今年度は、進学・就職ともに目標を高く掲げることで、日頃の授業に対する学習意欲を高めていく必要がある。 特別活動については、昨年度の学校行事（文化祭、クラスマッチなど）に対して85%の生徒から高評価を得た。今年度は、部活動やボランティア活動を含め、なお一層生徒の主体的・実践的な活動を推進する。 工業に関する知識を習得し、資格取得を含め専門的な技術教育が出来る学校、就職や大学進学もできる学校としての魅力をPRし、入学志願者を増やす。		1 学習指導の充実	1 指導と評価の一体化による授業改善（R→P→D→C→A） 2 1人1台端末を活用した協働的な学びの実践と個別最適な学びの推進 3 実践的・体験的な学習機会を取り入れた工業教育の充実及び資格取得の推進	
		2 生徒指導の充実	4 挨拶の励行、遅刻指導、服装指導等を通した基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成 5 生徒理解に努め、全ての生徒にとって安全・安心な居場所づくりの実現 6 専門家や関係機関等と連携した組織としての生徒指導・生徒支援の実践	
		3 進路指導の充実	7 多岐にわたる進路選択肢の周知と進路意識の高揚 8 体系的に企画された進路ガイダンス等の実施	
		4 特別活動の充実	9 各種行事等における生徒の自主的な活動の推進 10 部活動運営方針に基づく健全な部活動運営の実践 11 キャリアパスポートを活用した、自己理解、キャリア形成の支援	
		5 働き方改革の推進	12 教職員のワークバランスの意識の醸成を図り、超過勤務時間の削減 13 定時退勤日、閉庁日の設定、年次休暇取得の推推	
		6 地域連携・対外的活動の充実	14 インターアクトクラブを主体としたボランティア活動の推進 15 地域イベント等への積極的な参加による、外部への本校の魅力発信の強化 16 学校ホームページを活用した生徒の活躍状況等の適時発信	
		7 授業改善の推進	17 相互授業参観、他校視察、校内研修、教科横断授業等の推進 18 生徒の授業評価における、全教科平均3.5以上	

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	授業及び家庭学習において国語力の定着を図るための教材を準備する。	1		
		漢字テスト等の小テストを活用し、生徒の学力を把握するとともに、学習習慣を身に付けさせる。	1・2		
	読書を通して豊かな人間性を培う。	授業の始業時の読書活動等により、豊かな感受性を養うとともに思考力を向上させる。	1		
	就職・進学指導の充実を図る。	新聞やスタディサブリの活用を通して、生徒一人ひとりの進路実現に供する。	1・3		
		一般常識や作文、小論文の指導を通して、個々の進路希望に応じた知識や表現力を習得させる。	1		
地歴公民	基礎学力の向上を図る。	わかりやすい授業展開及び板書を心がけ、理解の不十分な生徒への対応を図る。	1・17・18		
		小テストやワークシートを活用し、進路実現に対応した一般常識の定着を図る。	1・2		
		ノート、プリントなどを定期的に点検し、学習の理解度などを把握する。	1・2		
	学習指導の工夫に努める。	電子黒板、タブレットによる I C T教育の積極的な活用を図る。	1・2		
		修学旅行先等各地の地理・歴史・文化を授業で取り上げ、生徒が関心を持つ授業に努める。	1・9		
		自らの意見を表現させる授業展開を心がけ、主体的に学習に取り組む態度の育成を促す。	1・2・18		
数学	基礎学力の向上に努める。	生徒の習熟度に応じた教材を精選し、授業での個別指導等を通してきめ細かな指導を行う。	1		
		レディネステスト、単元別テスト、定期考査等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補講を実施する。	1		
		進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。	1・3		
	家庭学習習慣の定着に努める。	問題集やプリントを利用して、家庭学習の習慣をつける。	1		
	わかる授業へと改善を図る。	教員間の情報交換を活性化させて教材開発の効率化を図り、生徒の実態に合わせた授業を展開する。	1		
理科	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で重要な物理や科学の基礎知識及び学力の定着に努める。	1・3・18		
		I C T等の多様な学習方法を活用し、理解度を把握し、不十分な生徒へは補講等を実施する。	1・2・18		
	理科の楽しさを実感する授業に努める。	I C T機器や実験・観察等をとおして、理科への興味関心を惹きつける。	1・2・3・18		
	探究心を育む。	自主的な学習や宿題、レポート等の提出状況を確認し、自ら探究する姿勢へと導く。	1・2・18		
英語	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し、授業での学習内容の定着を図る。	1		
		ワークやプリントを定期的に点検し、学習状況の実態を把握する。	1・2		
		定期的に課題等を与え、家庭学習の習慣をつける。	1・2		
		進路に応じた個別指導を実施し、進学希望者の実践的学力の向上を図る。	1・3		
	学習指導の工夫に努める。	授業は英語で行うことを基本とし、生徒に積極的な言語活動を促す。	1・17		
		電子黒板、タブレットを活用し、学習意欲を向上させるとともに、学習内容の理解を促進する。	1・2		
		A L Tと協力し、コミュニケーション活動の活発化を図る。	1		
保健体育	基礎体力及び技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。	1		
		技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては、段階に応じて個別指導を実施する。	1・2		
	運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し、種目の特性を理解できる機会を多くする。	1・9		
		勝敗を競い合うことの楽しさ、仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努める。	1		
	自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について、学校生活全体を通して徹底指導を図る。	1・4・5		
		基本的生活習慣を身につけさせるとともに適切な意志決定・行動選択をする力を培う指導に努める。	4・5		
家庭	家庭生活に関する基礎的基本的な知識と技術を身につけ、実生活に生かす力を養う。	授業への取り組みや課題等の提出状況を確認し、理解度を把握する。	1		
		実験・実習を通して基礎的・基本的技術力の向上を図る。	1		
	学習指導の工夫に努める。	教材や資料の利用を工夫し、生徒の理解を深める授業を行う。	1		
		実験・実習など安全かつきめ細やかな指導をする。	1・17		
美術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	1		
		意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	1・2		
	感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	1		
		鑑賞に関して、作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	1		
	個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	1・2		

※評価基準　A：大変よくできた　B：よくできた　C：ふつう　D：やや不十分　E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
音楽	鑑賞力を養う。	主体的・能動的に音楽鑑賞ができるよう事前学習を徹底する。	1		
	音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	様々なジャンルの音楽を通して、創造的な表現力の育成を図る。	1		
機械科	機械の知識や基礎技能の向上を図る。	授業の内容が理解できるように、生徒に課題提出や補習等を実施する。	3		
		専門教科・科目に興味を持たせる指導の工夫を図る。	1・18		
		授業や補講により、資格取得の支援に努め、計画的に実施する。	3		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	3・17		
電気・電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	わかりやすい授業を試み、到達目標に達していない生徒に対しては、課題や補講で対応する。	1・3・18		
		知識の理解度や、計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払う。	1		
	資格取得の実績を上げる。	様々な資格に関する情報を提供する。	3		
		教科指導、資格指導を担任と連携し積極的に行う。	3・18		
		放課後や長期休業期間等に、筆記試験及び実技関連の課外授業等を行い、資格取得指導の充実を図る。	3		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	3		
建設工学科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し、不十分な生徒に対しては補講を実施する。	1		
		演習問題を数多く行い、レベルアップを図る。	1		
		製図や資格試験との関連性を重視した教科内容とし、図面の読み描き等が正確にできる基礎能力を養う。	3		
	資格取得実績の向上を図る。	課題や補講により、資格取得の支援に努める。	3		
	競技会に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会の出場を目指す。	3		
		各種コンペ競技に参加する。	3		
	外部機関との連携を図る。	建設業への興味・関心をさらに持たせることを目指す。	3		
		専門的な知識や技術の向上を目指す。	3		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	17		
教務	教育活動の公表に努める。	学校要覧、学校案内パンフレット等の作成や、ホームページの活用をとおして、開かれた学校づくりに努める。	15・16		
		生徒・保護者による授業評価・学校評価を行い、結果をホームページで公表する。	16・17・18		
	教育活動の公表に努める。	授業時間数を確保するため、年休・出張時の授業の振替を徹底する。	12・13		
		学校行事を精選し、授業時間数を確保する。	8・9		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	各種検定試験の計画・実施を通して、資格取得実績の伸長を図る。	3・7		
	基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	授業改善推進プロジェクトのもと、授業展開を工夫し、生徒の基礎学力の向上を目指す。	1・17・18		
	研修をとおして教員の資質の向上を図る。	人権教育やＩＣＴ教育推進に関する教職員研修会を実施し、教職員の資質の向上を図る。	1・2・17		
	生徒の学習環境の支援を図る。	各種奨学金等の事務処理を確実に行う。	6		
生徒支援	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	立哨指導や遅刻指導、服装指導を通して、あいさつの励行や服装頭髪等のルール遵守を図る。	4・5		
		教職員指導当番や各学年及び各校務部との連携により、登下校マナーの向上に取り組む体制を構築する。	4・5		
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導、バイク点検、交通講話等を通して、交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。	5・6		
		授業やホームルーム活動、学校行事、集会等を通して、社会の一員としての考え方や心構えを養う。また、外部との連携により、モラル向上のための講演会等を企画・実施する。	5・6		
	心の教育の充実に努める。	ホームルーム、授業及び定期的な調査等を通して、小さな変化、サインを見落とさない体制を作る。	4・5		
		各学年・保健室等との連携をはかり、生徒個々の密な情報交換に努める。また、スクールカウンセラーの活用を推進する。	4・5・6		

※評価基準　Ａ：大変よくできた　Ｂ：よくできた　Ｃ：ふつう　Ｄ：やや不十分　Ｅ：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより、将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。	1・2・3	
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して、各自の適性を知り職業観の定着を図る。	2・3	
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して、勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。	3・7・8	
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し、模擬試験等を活用し系統的に学力が身に付く体制づくりをする。	1・2・3	
		職業資格取得の奨励により、スキルアップ・職業意識の高揚を図る。	2・3	
	外部との連携を充実する。	産業界や大学等との友好的なパートナーシップを築く。	3・7・8	
		保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。	7・16	
	情報提供を充実する。	「進路実現ノート」及び「進路だより」の発行や進路ホームページを工夫するなど、的確な進路情報の提供を行う。	11・16	
WE Bを活用した進路情報の提供を充実させる。		7・16		
特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	体育祭やクラスマッチを中心とした学校行事において、ホームルーム・生徒会・委員会などの自主的活動を促す。	9・10	
		生徒会誌「轍」や生徒会新聞「志工」を発行し、生徒を通じ地域や保護者等への広報活動を充実させる。	16	
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め、地域とのつながりを密にする。	9・14・15	
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。	9・10	
	キャリアパスポートの活用を図る。	LHR等においてキャリアパスポートを活用することにより、生徒の主体的な進路選択を促す。	11	
厚生	学習活動に適した環境の整備と、学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動や定期的な大掃除により、生徒の環境美化意識を高める。	5・9	
		学校保健安全計画に基づき、諸検査・安全点検・防災訓練等を実施する。	5・9	
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき、健康診断や検診等を実施し、結果をクラス担任や保護者と連携して対応する。	5・6・9	
		保健だよりの発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	5・6・9・16	
		保健室の円滑な管理・運営に努める。	5・6・12	
		学校医等の協力を得て、基本的な感染対策の徹底を図り、校内感染の防止に努める。	5・6	
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	生徒の保健室の利用状況を把握する。	5・6	
		クラス担任、学年、他分掌など、関係部署と情報の交換等を行い連携する。	5・6・17	
図書	図書館の利活用の推進を図る。	適切な選書及び廃棄、図書の管理を通して、生徒や教職員が利用しやすい環境づくりに努める。	5・12	
		新刊案内、ライブラリーニュース、図書館報等の発行をとおして、読書活動を推進する。	2・7	
		図書委員会の諸活動を通して、生涯にわたり図書から学び続けようとする人間性を育む。	9	
	視聴覚室の環境整備	各種機材等の点検をし、利用しやすい環境を整える。	16	
渉外	関係諸機関との連携を図り、家庭教育の支援を推進する。	P T A会員に向けて、家庭教育を教職員と共に支援するため、研修会の情報を提供していく。 P T A新聞の発行や、ホームページによる情報発信などを通じて、P T A活動の広報に努める。	16	
		P T A会員の相互の連携や親睦を深めるとともに、負担軽減とP T A行事への参加率の向上に務める。	16	
情報	校内外への情報配信に努める。	校外向けH P運用の変更を図り情報伝達の充実を図る。	16	
		各科・各校務分掌と連携を図り統合型校務支援システムの安定運用を図る。	12	
		生徒個人持ちのタブレット端末の接続支援・電子黒板などの機器の運用支援を行う。	2	
	P C環境を整備する。	生徒活動に則したP C環境を整備し、校内P Cの正しい利用を推進する。	2	
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校に伝え、活性化を図る。	学校公開を兼ねた公開実習を実施し、中学生や保護者に対して広報活動等の充実を図る。	16	
		県西生涯学習センターの地域行事に参加し、本校の広報活動に寄与する。	9・15	

※評価基準　Ａ：大変よくできた　Ｂ：よくできた　Ｃ：ふつう　Ｄ：やや不十分　Ｅ：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立	服装や身だしなみを整え、正しい言葉遣いを身に付ける。	1・4・5		
		身の回りの整理・整頓の大切さを知る。	1・4・5		
		時間を守り、規則正しい生活を送る。	1・4・6・9		
	互いに認め合い、高め合える関係性を育む	相手の立場となつて考え、思いやりの気持ちを知る。	1・4・5・6		
		学校行事やLHR等を通じてコミュニケーション能力を育てる。	4・5・9・11		
		他者の優れている点を認め合うことで、互いに高め合える関係性を築く。	4・5・9		
	自分自身を見つめる	適性検査や進路ガイダンスを計画的に実施することで、自分の適性を見つける。	7・8・11		
		学習の方法を学ぶとともに、どのような資格取得が可能かを調べる。	1・2・3・7		
		部活動やボランティア活動を通じて達成感や自己有用感を味わう。	7・10・11		
第2学年	計画的な準備と行動力を身に付ける	TPOに応じた服装や言葉遣いを身に付ける。	1・4・5		
		行動を起こすに当たり何が必要か、どのような準備をすべきかを考える。	1・4・5		
		事前の準備をしっかりと行い、計画的に行動する。	4・5・9		
	互いに認め合い、高め合える集団を築く	相手の気持ちを考えて行動する集団を築く。	4・5		
		コミュニケーション能力を高め、互いに励まし合う。	4・5		
		主体的に目標を持ち、協力して行動する。	9・10		
	進路目標を立てる	進路ガイダンス等を通して、自分の適性を理解し、具体的な進路目標を立てる。	2・7・8		
		学力向上及び資格取得に努める。	1・2・3・7		
		インターンシップを通して、仕事や企業に対する理解を深め、進路実現に向けて努力する。	3・7・8		
第3学年	主体的に行動する力を身に付ける	TPOに応じて、自ら率先して考えて行動できる。	1・4・5		
		情報収集に努めることで、様々な場面での対応能力を身に付ける。	1・2・5		
		常に自分の考えを持って、冷静に判断できる。	1・2・5		
	理解し合える集団の育成	互いの気持ちを理解し合える関係性を築く。	4・5		
		目標を叶えるために、互いに励まし合い努力する。	4・5		
		相手の成功を喜び、自らの力に変えることのできる集団を育てる。	9・10		
	進路を実現する	希望する進路を実現するために、何が必要かを考え、よく調べ、よく学ぶ。	7・8・11		
		「キャリアパスポート」を活用し、自己分析とキャリア形成に必要な力を育てる。	1・6・7・11		
		進路決定後も、自分には何が必要かを考えて努力する。	9・10・11		

※評価基準　A：大変よくできた　B：よくできた　C：ふつう　D：やや不十分　E：不十分